

写真：東九州自動車道西都ICでの周辺住民の参加による避難訓練

特集

町民一体となった災害に強いまちづくり



～安全・安心な町をめざして～

見直される災害対策

昨年、発生した東日本大震災は、従来の津波など災害に対する考えや対策を大きく一変させ、改めて防災の在り方を考えさせられることとなりました。

さらに、近年は気候の変化が影響してか、全国各地で集中豪雨や台風のもたらす前線による大雨や竜巻などの大規模な災害が相次いで発生しています。

本町におきましても、今後このような大規模災害がいつ発生するか、分かりません。災害発生時に素早く対応し被害を最小限にするためには、日頃からの備えや心構えが必要です。

町では、災害に強いまちづくりのため、従来の対策より機動的に対応できるよう、昨年の機構改革で防災対策の担当課を設置しました。そして、防災対策全体を見直し、町民一体となつて、災害に強いまちづくりに取り組んでいます。

防災への取り組み

町では、防災対策として防災施設整備などのハード面だけでなく、迅速な避難等ができ、被害軽減につながるができるよう防災意識向上を目的としたソフト面の充実も図っています。

ソフト面の具体的な取り組み

ソフト面の具体的な取り組みとして、地区での自主防災組織設立に対する支援や防災士の育成、防災意識向上を目的とした防災講話開催、実効性の高い防災避難訓練の実施など、「町民と一体となった防災体制」の構築を推進しています。

また最新の海抜および津波情報を反映したハザードマップの作成や主要施設への海抜表示などを行い、災害に強いまちづくりを目指します。

